## 6月23日「介護保険の展望を切り開く」結城康博先生のセミナーです。

6月23日、「介護保険の展望を切り開く」結城康博、淑徳大学教授。

50 才の彼は、東大安田講堂に集まった団塊の世代の医師や関係者宛に、「世代内扶養と介護を受ける側のマナー」を提案した。

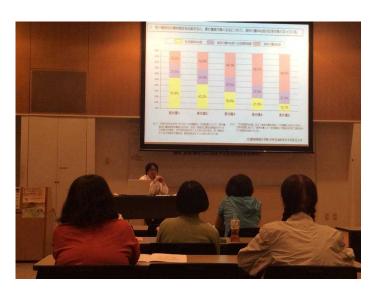
https://www.chunichi.co.jp/article/feature/iryou/list/CK2019012202000241.html?fbclid=IwAR1-xtL0ZkJJ3v6ZvfURx8SCPqIfQvdEu3WzqL3T6S6TvY59Jh7P7ttswkw

そして、今のままでは地域包括ケアは成功しない。と言い切る。医療福祉介護の専門職連携や地域コミュニティーの再生はずっと言われて来た。僕も地域包括ケアには疑問!?

結城さんは、生活援助のヘルパーが何より大事だが、このままいけば枯渇する。2035年団塊の世代85才の時にケアする人はいないと指摘。また、介護業界3年で定着はわずか30%。理念と人間関係、向かない人を入れて回りを疲れさせない、介護される側のマナーモンピア?モン家族?も強調された。

福祉の人には少ないのだが、都市計画の視点から、コンパクトシティはある意味居住制限、宅配便は平日のみ、コンビニは夜間閉店、規制をして介護の労働力確保、まで提案されていた。

刺激的な勉強会でした。今週は日々勉強、、。





## 結城が考える懸念 生活援助を軽視は地域包括ケアに矛盾する!! ・ 今後、要介護者を対象とした介護給付においても、総合事業と同様に「セミプロヘルパー」でも従事可能とする政令に改めるか否かが、今回の議論の焦点ではないか??? ・ 人手不足が深刻化する中で、「セミプロヘルパー」でも介護給付の生活援助に対応できるようにすれば、少しでも問題に歯止めをかけられるのではないか?セミプロヘルパーであれば報酬単価を低く設定???? ・ 独居や夫婦のみで暮らす高齢者が増えている現在、「掃除」「洗濯」「買物」といった生活援助がヘルパーの「プロの目」でなされることにより、利用者の重度化を防いでいるケースは少なくない。 ・ 自立支援を促し、転倒予防を考慮した「掃除」などは、プロの目を持っていなければ難しいだろう!